

令和2年2月22日（土）

府中町家庭教育支援チーム「くすのき」 ファシリテーターステップアップ研修



家庭教育支援チーム

つながりが創る豊かな家庭教育支援を目指して — 国・県の施策の動向を中心に —



広島県立生涯学習センター
社会教育主事 松田 愛子

我が国が直面する未来 — 3つの未来予測 —

50年後の
生産年齢人口

▶ 現在の約 _____ %に

2007年生まれの
子供の約半分が
到達する年齢

▶ _____ 歳

10~20年後にAIや
ロボットに代替され
る確率が高い職業

▶ 現存の約 _____ %に

変化が激しく予測困難な未来が到来

「生涯にわたって主体的に学び続ける力」が必要

国の動向

- 第3期教育振興基本計画
- 地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み
- 家庭教育支援推進施策について
- 家庭教育支援チームについて

第1部 我が国における今後の教育政策の方向性

I 教育の普遍的な使命

改正教育基本法に規定する教育の目的である「人格の完成」、「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」と、教育の目標を達成すべく、「教育立国」の実現に向け更なる取組が必要

II 教育をめぐる現状と課題

1 これまでの取組の成果

- 初等中等教育段階における世界トップレベルの学力の維持
- 給付型奨学金制度、所得連動返還型奨学金制度の創設
- 学校施設の耐震化の進展 等

2 社会の現状や2030年以降の変化等を踏まえ、取り組むべき課題

- (1) 社会状況の変化
人口減少・高齢化、技術革新、グローバル化、子供の貧困、地域間格差 等
- (2) 教育をめぐる状況変化
○子供や若者の学習・生活面の課題 ○地域や家庭の状況変化
○教師の負担 ○高等教育の質保証等の課題
- (3) 教育をめぐる国際的な政策の動向
OECDによる教育政策レビュー 等

III 2030年以降の社会を展望した教育政策の重点事項

第2期計画の「自立」「協働」「創造」の方向性を継承し、以下の姿を目指す

《個人と社会の目指すべき姿》

- (個人) 自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材の育成
- (社会) 一人一人が活躍し、豊かで安心して暮らせる社会の実現、社会(地域・国・世界)の持続的な成長・発展

《教育政策の重点事項》

- 「超スマート社会(Society 5.0)」の実現に向けた技術革新が進展するなか「人生100年時代」を豊かに生きていくためには、「人づくり革命」、「生産性革命」の一環として、若年期の教育、生涯にわたる学習や能力向上が必要
- 教育を通じて生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」を最大化することを今後の教育政策の中心に据えて取り組む

IV 今後の教育政策に関する基本的な方針

- 1 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する
- 2 社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する
- 3 生涯学び、活躍できる環境を整える
- 4 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する
- 5 教育政策推進のための基盤を整備する

V 今後の教育政策の遂行に当たって特に留意すべき視点

1. 客観的な根拠を重視した教育政策の推進

- ・ 教育政策においてPDCAサイクルを確立し、十分に機能させることが必要
企画・立案段階：政策目標、施策を総合的・体系的に示す[ロジックモデルの活用、指標設定]
実施段階：毎年、各施策のフォローアップ等を踏まえ着実に実施
[職員の育成、先進事例の共有]
評価・改善段階：政策評価との連携、評価結果を踏まえた施策・次期計画の改善
- ・ 客観的な根拠に基づく政策立案(EBPM(Evidence-Based Policy Making))を推進する体制を文部科学省に構築、多様な分野の研究者との連携強化、データの一元化、提供体制等の改革を推進

2. 教育投資の在り方(第3期計画期間における教育投資の方向)

- ・ 人材への投資の抜本的な拡充を行うため、「新しい経済政策パッケージ」等を着実に実施し、教育費負担を軽減
- ・ 各教育段階における教育の質の向上のための教育投資の確保
◇学校指導体制・指導環境整備、チーム学校 ◇学校施設の安全性確保(防災・老朽化対策)
◇大学改革の徹底・教育研究の質的向上 ◇社会人のリカレント教育の環境整備
◇若手研究者安定的雇用、博士課程学生支援 ◇大学施設の改修 など
- ・ OECD諸国など諸外国における公財政支出など教育投資の状況を参考とし、必要な予算を財源措置し、真に必要な教育投資を確保
- ・ その際、客観的な根拠に基づくPDCAサイクルを徹底し、国民の理解を醸成

3. 新時代の到来を見据えた次世代の教育の創造

- ・ 超スマート社会(Society 5.0)の実現など、社会構造の急速な変革が見込まれる中、次世代の学校の在り方など、未来志向の研究開発を不断に推進
- ・ 人口減少・高齢化などの、地域課題の解決に向け、「持続可能な社会教育システム」の構築に向けた新たな政策を展開
- ・ 次世代の教育の創造に向けた研究開発と先導的な取組を推進

第2部 今後5年間の教育政策の目標と施策群

第1部で示した5つの基本的な方針ごとに、

- ①教育政策の目標
- ②目標の進捗状況を把握するための測定指標及び参考指標
- ③目標を実現するために必要となる施策群を整理



基本的な方針	教育政策の目標
1 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する	(1) 確かな学力の育成<主として初等中等教育段階>
	(2) 豊かな心の育成<〃>
	(3) 健やかな体の育成<〃>
	(4) 問題発見・解決能力の修得<主として高等教育段階>
	(5) 社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成<生涯の各段階>
	(6) 家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進<〃>
2 社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する	(7) グローバルに活躍する人材の育成
	(8) 大学院教育の改革等を通じたイノベーションを牽引する人材の育成
	(9) スポーツ・文化等多様な分野の人材の育成
3 生涯学び、活躍できる環境を整える	(10) 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進
	(11) 人々の暮らしの向上と社会の持続的な発展のための学びの推進
	(12) 職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進
	(13) 障害者の生涯学習の推進
4 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する	(14) 家庭の経済状況や地理的条件への対応
	(15) 多様なニーズに対応した教育機会の提供
5 教育政策推進のための基盤を整備する	(16) 新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導体制の整備等
	(17) ICT利活用のための基盤の整備
	(18) 安全・安心で質の高い教育研究環境の整備
	(19) 児童生徒等の安全の確保
	(20) 教育研究の基盤強化に向けた高等教育のシステム改革
	(21) 日本型教育の海外展開と我が国の教育の国際化

目標（6）家庭・地域の教育力の向上

○家庭の教育力の向上

- ・関係府省が連携し、妊娠期から学齢期以降までの切れ目のない支援の実現に向けて、**地域における子育て支援と家庭教育支援の連携体制を構築**し、教育委員会と他の部局の間、関係機関・関係者の中で、支援が必要な子供や家庭に関する情報の共有化や協働の促進を図る。
- ・**家庭教育支援員となる人材の育成**や、**訪問型家庭教育支援の充実**を図るとともに、必要となる個人情報円滑かつ適切な共有に係る好事例の収集や周知を行うなど、**様々な課題を抱えながらも地域から孤立し、自ら相談の場にアクセスすることが困難な家庭やその親子に対する支援**を強化する。

★測定指標

地域において子育ての悩みや不安を相談できる人がいる保護者の割合の改善

目標（14）家庭の経済状況や地理的条件への対応

○地域の教育資源の活用

- ・社会教育施設を活用した読書習慣の定着等の教育格差解消に向けた活動、**家庭教育支援チーム等による相談対応**や**訪問型家庭教育支援等の取組を通じた課題別の効果的な支援**等を推進し、成果の普及を図る。

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。

◎ 従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。

★より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「**緩やかなネットワーク**」を形成



家庭教育支援の推進について

家庭教育：父母その他の保護者が子供に対して行う教育

家庭教育は、すべての教育の出発点であり、子供の豊かな情操や基本的な生活習慣、家族を大切に作る気持ちや他人に対する思いやり、命を大切に作る気持ち、善悪の判断などの基本的倫理観、社会的なマナー、自制心や自立心を養う上で重要な役割を担うものである。

家庭教育支援の推進に関する検討委員会報告書(平成24年)

「つながりが創る豊かな家庭教育～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～」から要約

教育基本法

(改正教育基本法(H18)において家庭教育に関する条文を新設)

(家庭教育)

第10条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

(学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力)

第13条 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。

家庭教育支援に関する施策の方向性

「つながりが創る豊かな家庭教育」(平成24年3月)

(家庭教育支援の推進に関する検討委員会(座長: 汐見稔幸白梅学園大学学長)報告書)

趣旨: 各自治体による主体的な取組の活性化を図るとともに、喫緊の社会的課題を踏まえた家庭教育支援のあり方を国として示すことを目的として、検討委員会を設置し、「つながりが創る豊かな家庭教育」を取りまとめたもの。

○ 報告書(平成24年3月)の概要

<現状と課題>

- 子育ての自信や対処能力の不足、発達段階に応じた子どものかかわり方がわからない
→ **子の誕生から自立までの切れ目のない支援**が必要
- 家庭が孤立化が進み、困難な課題を抱え込み、児童虐待など問題が深刻化
→ 課題を抱える家庭に対して、**届ける支援(アウトリーチ)と福祉等との連携が必要**
- 引きこもりなど、子どもの社会性や自立心が育ちにくい
→ **多様な世代が関わり合う社会**で、子どもの育ちを支えることが必要

現代社会は親子の育ちを支える人間関係の弱まりや子どもの社会性や自立心などの育ちをめぐる課題など、**家庭教育が困難になっている社会**との認識が必要 → **地域の取組の活性化が必要**

<基本的な方向性>

- 方向性① 親の育ちを応援する**
- 方向性② 家庭のネットワークを広げる方向性**
- 方向性③ 支援のネットワークを広げる**

地域における家庭教育支援基盤構築事業

～ 家庭教育支援チーム強化促進プラン～

【補助率】	
国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

令和2年度要求・要望額
(前年度予算額)

128百万円
73百万円



背景

- 核家族化、共働き家庭・ひとり親家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が変化
(ひとり親世帯の数(H30) 約74万世帯 (10年前より約3割増加))
- 身近な相談相手がないなど、家庭教育を行うことが困難な社会
(地域において子育ての悩みや不安を相談できる人がいる保護者の割合：34.2%) (子育てする人にとって地域の支えがとても重要だと思う・やや重要だと思う 90.9%)
- 児童虐待相談対応件数は一貫して増加
(児童相談所への相談件数：H11 11,631件→H30 159,850件(速報値) H11年度に比べ約13.7倍)

地域人材の養成

家庭教育支援員等の養成

- 家庭教育に関する情報提供や相談対応等を行う人材を養成
- 支援活動の企画・運営、関係機関・団体との連携等を担う中核的人材を養成

地域の多様な人材による参画 (例)

中核的人材の養成

家庭教育支援体制の構築

家庭教育支援員の配置

- 小学校等に家庭教育支援員を配置し身近な地域における家庭教育支援の体制を強化

家庭教育支援チームの組織化

- 家庭教育支援員などの地域人材を中心としたチームの組織化

【チーム員構成例】
家庭教育支援員、元教員、民生・児童委員、保健師 等

家庭教育を支援する取組

学習機会の効果的な提供

- 就学時健診や保護者会、参観日など、多くの親が集まる機会を活用した学習機会の提供

親子参加型行事の実施

- 親子の自己肯定感、自立心などの社会を生き抜く力を養成するため、親子での参加型行事やボランティア活動、地域活動等のプログラムを展開

相談対応や情報提供

- 悩みを抱える保護者、仕事で忙しい保護者など、様々な家庭の状況に応じて、家庭教育支援チームによる情報提供や対応を実施

支援が届きにくい家庭への対応の充実、虐待の未然防止・早期発見

- 家庭教育支援員等に対する児童虐待対応に関する研修強化
- 関係機関との協議・連携による情報共有等の実施
- 定期的な家庭訪問の実施(訪問型家庭教育支援)
- 児童虐待防止に資する保護者等向け講座の充実

全ての保護者が安心して家庭教育を行うことができるよう支援体制の整備

家庭教育支援チームについて①

● 「家庭教育支援チーム」って何？

子育て経験者など、地域の多様な人材で構成された自主的な集まりです。学校や地域、教育委員会等の行政や福祉関係機関と連携しながら、子育てや家庭教育を応援する様々な活動を行います。

“身近な地域の子育て・家庭教育応援団”です！

● 「家庭教育支援チーム」の主な活動は？



① 保護者への学びの場の提供

保護者に対する主体的な「学び」と「育ち」に関する学習機会の提供や情報提供，相談対応

② 地域の居場所づくり

地域資源を活用した親子参加型の体験型プログラム実施・情報提供，日常的な交流の場の提供

③ 訪問型家庭教育支援

地域から孤立した家庭等へ，家庭訪問等により個別に情報提供や相談対応し，学びの場や地域社会への参加を促進

家庭教育支援チームについて②

● 「家庭教育支援チーム」に期待される役割

- 子供が成長するまで**保護者と同じ目線**で寄り添う
- 学校や行政の相談窓口には**気軽に相談**しにくい点をフォロー
- 行政では**どうしても手が回らない部分**をフォロー
- 家庭と学校、教育委員会、保健福祉関係機関など**関係機関をつなぐ**
- **虐待の未然防止や不登校等の課題を抱える保護者をサポート**

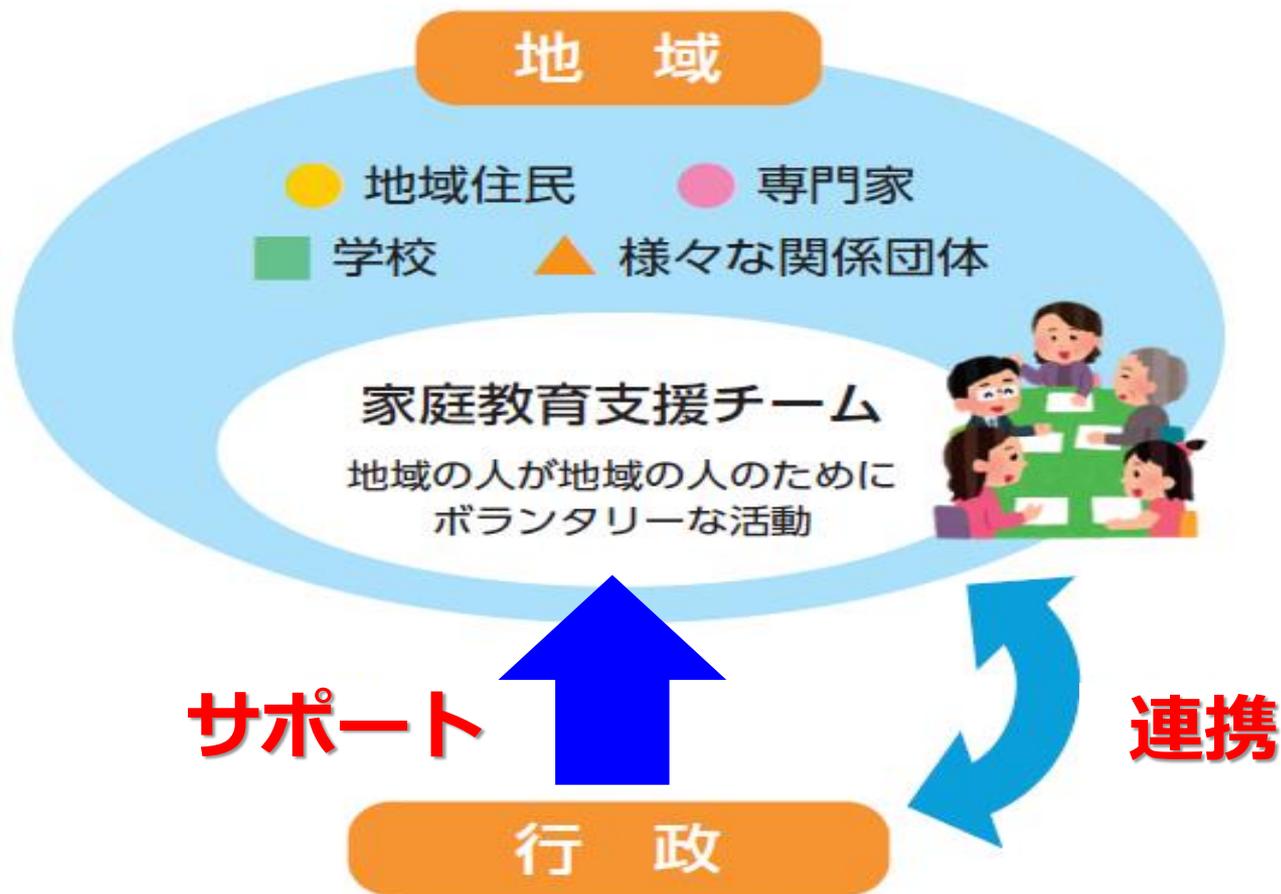
無理せず、できる時間・できる範囲で

- ♥ **当事者性**：子育て経験者など**保護者と同じ目線**で寄り添う
- ♥ **地域性**：地域の課題を共有し、**地域の身近な存在**として
- ♥ **専門性**：業務によっては、**一定の専門性**も望まれる

家庭教育支援チームについて③

● 「家庭教育支援チーム」に対する行政からのサポート

チームによる地域の課題解決の役割が期待されます！



子育て支援を推進する

家庭教育支援チームの取組事例①

家庭教育支援チームによる親子の交流の場の提供

◆ 「だんぼの部屋」 ～学校のなかに誰でも気軽に立ち寄れる部屋をつくりました～

(新潟県南魚沼市家庭教育支援チーム)

【構成員】

○ 家庭教育サポーター（民生児童委員等）、ボランティアリーダー（主婦）、PTA関係者など。

→ここでは、単なる子育ての先輩、地域のおせっかい屋さんに変身して活動。

【活動の拠点】

○ 小学校1階の一室。チーム員や読書ボランティア、地域の方などが常駐。

専用のブザーがあり、子供や保護者、中高生などが気軽に立ち寄れる場所となっている。

【活動内容】

○ 親子ものづくり教室、料理教室など楽しみながら交流を図る機会の提供。

○ 読み聞かせのコツなどを学ぶ図書ボランティア養成講座。

○ 発達障害や児童虐待対応などをテーマにした学習会の実施。

○ 朝夕の“一声・声がけ”訪問や「だんぼ通信」を届ける活動。

○ 学校や担任の先生と連携して心配な保護者の対応を検討。

【効果】

○ 親子で共同作業する楽しさや役立つ自分を発見できた。

○ みんなが安心してつぶやける場所、みんなの力が発揮できる場所ができた。

○ 短い訪問時間でも回数を重ねることで、**学校に足を運ばなかった保護者が「だんぼの部屋」や学校行事に来るようになった。**また、校内に設置したことで、**子どもの会話から状況理解ができ、学校との信頼関係を築くことができた。**

○ 1小学校区での実施から**市内4小学校区及び1特別支援学校区に「だんぼの部屋」を拡大。**



「だんぼの部屋」の様子

家庭教育支援チームの取組事例②

課題を抱える家庭に対する学校・福祉と協働した支援の仕組みづくり(訪問型支援)

◆地域人材からスクールソーシャルワーカーに！

～スクールソーシャルワーカーがリーダーの家庭教育支援チーム～

(和歌山県湯浅町家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」)

【構成員】

- **チームリーダー(スクールソーシャルワーカー(元保育士))**、元保育士、元教職員、民生児童委員、母子保健推進員、栄養士、読み聞かせボランティア活動員、地域住民など。

【活動の拠点】

- 役場庁舎内(保健センター)

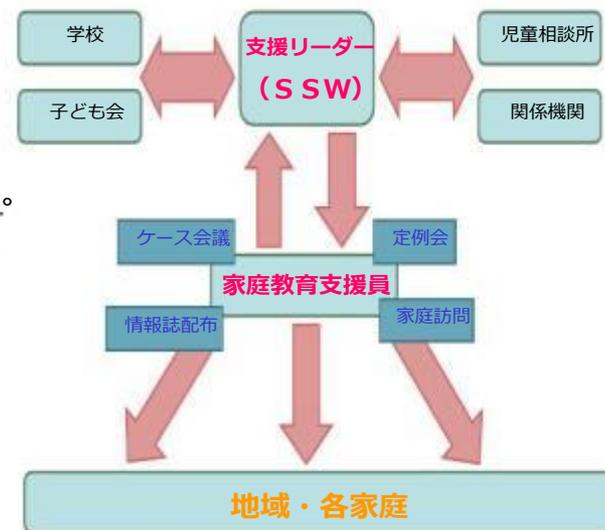
【活動内容】

- **保護者向け情報誌**を毎月発行し、**小・中学生の全家庭を訪問**し、早期対応。
- 保護者や学校からの相談に対して、**学校・教育委員会・支援チーム**などで**ケース会議**を行い、効果的な支援方を検討。
- 平成27年度から新たに子ども・子育て支援新制度の利用者支援事業を活用し、**乳幼児家庭への全戸訪問**も実施。

【効果】

- 利用者支援事業を活用し福祉とも連携することで、未就学時から学齢期まで一貫した子育て・家庭教育支援が可能となった。
- **SSWや支援チーム員が学校と保護者のパイプ役**として大きな役割を果たし、**家庭訪問の際、学校での子供の様子を保護者にさりげなく伝えることで、保護者の学校に対する理解が進み、信頼関係も築けるようになってきた。**
- **学校にとっても、子供の家庭内での様子を知ることができ、生徒指導上の課題解決にもつながっている。**

SSWと家庭教育支援員



「家庭訪問」の様子

家庭教育支援チームの取組事例③

家庭訪問による相談支援～行政（学校教育担当部局）主導型～

◆スマイル・サポートチーム ～サポーターが家庭と学校をつなぐ潤滑油に～ (大阪府泉大津市家庭教育支援チーム)

【構成員】

- 家庭教育支援チームリーダー、家庭教育支援サポーター

【活動の拠点】

- 泉大津市教育支援センター

<支援体制>



《サポーター会議の様子》

【活動内容】

- 教育支援センターを拠点に、学校園や福祉部局からの依頼を受け、訪問するサポーターとチームリーダーが校内（小中学校）の**ケース会議**で支援の役割連携を確認した上で、サポーターが家庭に訪問する。
- サポーターはカウンセリングスキルを生かして子育てに関する不安や悩み等の本音を引き出し、**保護者のエンパワメント**を図る。

【効果】

- 学校関係者でもない行政関係者でもない、カウンセリングスキルを持った第三者が家庭訪問**を行うことで、なかなか教員が家庭訪問を行うのが難しい朝早い時間や、授業中、夕方以降の訪問に対しても、家庭の状況に合わせて支援を行うことができています。
- 保護者を支援することで子供が落ち着きを取り戻し、問題行動等の改善につながっている。平成28年度に関わった家庭の不登校児童生徒の約6割に学校復帰等の改善が見られた。また、サポーターが家庭と学校（先生）をつなぐ潤滑油となり、関係が改善された事例も数多くあった。

県の動向

◆広島版「学びの変革」アクション・プラン H26.12

“変化の激しい社会を生き抜くことのできる資質・能力（学び続ける力）の育成”

◆広島県 教育に関する大綱 H28.2

◆県教育委員会 主要施策実施方針 H29.2

広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の実現

- 幼児期から大学・社会人まで
- オール広島県
- 広島らしさ

- 生涯にわたって学び続けるための環境づくり
- 生涯学習・社会教育を進める環境づくり
- 現代的・社会的な課題に対応した学習の推進
- 地域の学びを支える人材の育成
- 学校・家庭・地域が連携した教育の推進
- 家庭教育への支援 …

成果指標	内容	H28基準値	H30実績	R02目標値
社会や地域の課題解決に関する講座の割合	公民館等における全講座のうち、社会や地域の課題解決に関する講座の割合	60.3% (H27実績)	→60.3%	65%
生涯学習・社会教育関係等職員の研修成果の活用割合	研修で習得した知識や技能を業務で活用した職員の割合	93.7% (H27実績)	↗100%	100%
放課後子供教室への大学生ボランティアの派遣件数	放課後等の子供の居場所づくりや体験活動の充実のため、大学生ボランティアを派遣した件数	194件 (H27実績)	↗198件	200件
「親の力」をまなびあう学習プログラムの受講者の満足度	「親の力」をまなびあう学習プログラムを受講した保護者等の不安が軽減したと回答した割合	86.4% (H27実績)	↘85.6%	90%

家庭教育への支援

「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プラン

全県的な乳幼児期の教育・保育の質の向上を図るため、
「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プランに基づいた家庭教育
育や教育・保育施設への支援などの施策を展開し、本県が目指す
乳幼児の姿の実現を目指す。

本県が目指す乳幼児の姿

「遊び 学び 育つひろしまっ子！」

感じる・気付く力

うごく力

考える力

やいぬく力

人とかかわる力

園・所等における教育・保育の充実

- ・ 教育・保育内容，教員，
保育士等の研修の充実等
- ・ 幼・保・小連携教育の推進

家庭教育支援の充実

- ・ 子育てに役立つ情報の提供
- ・ 親子の学び・集いの場の推進
- ・ 地域による親子支援

家庭教育支援② 親子の学び・集いの場の充実

・ 親などの育ちを応援する学習機会の充実

「親の力」をまなびあう学習プログラム

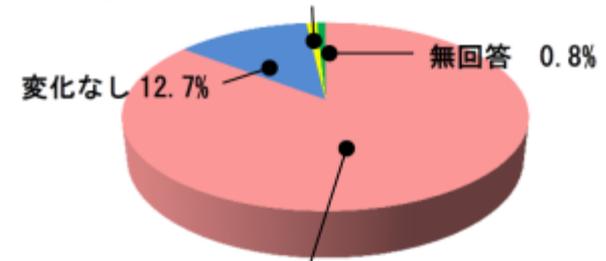
- 身近なエピソードをもとにした内容
- 子育て段階等に応じたプログラム
- 楽しく話し、聞いて納得する参加型

自分一人が悩んでいるのではないことが分かり、気持ちが軽くなりました。



参加者の約86%が子育ての不安が軽くなったと感じています!

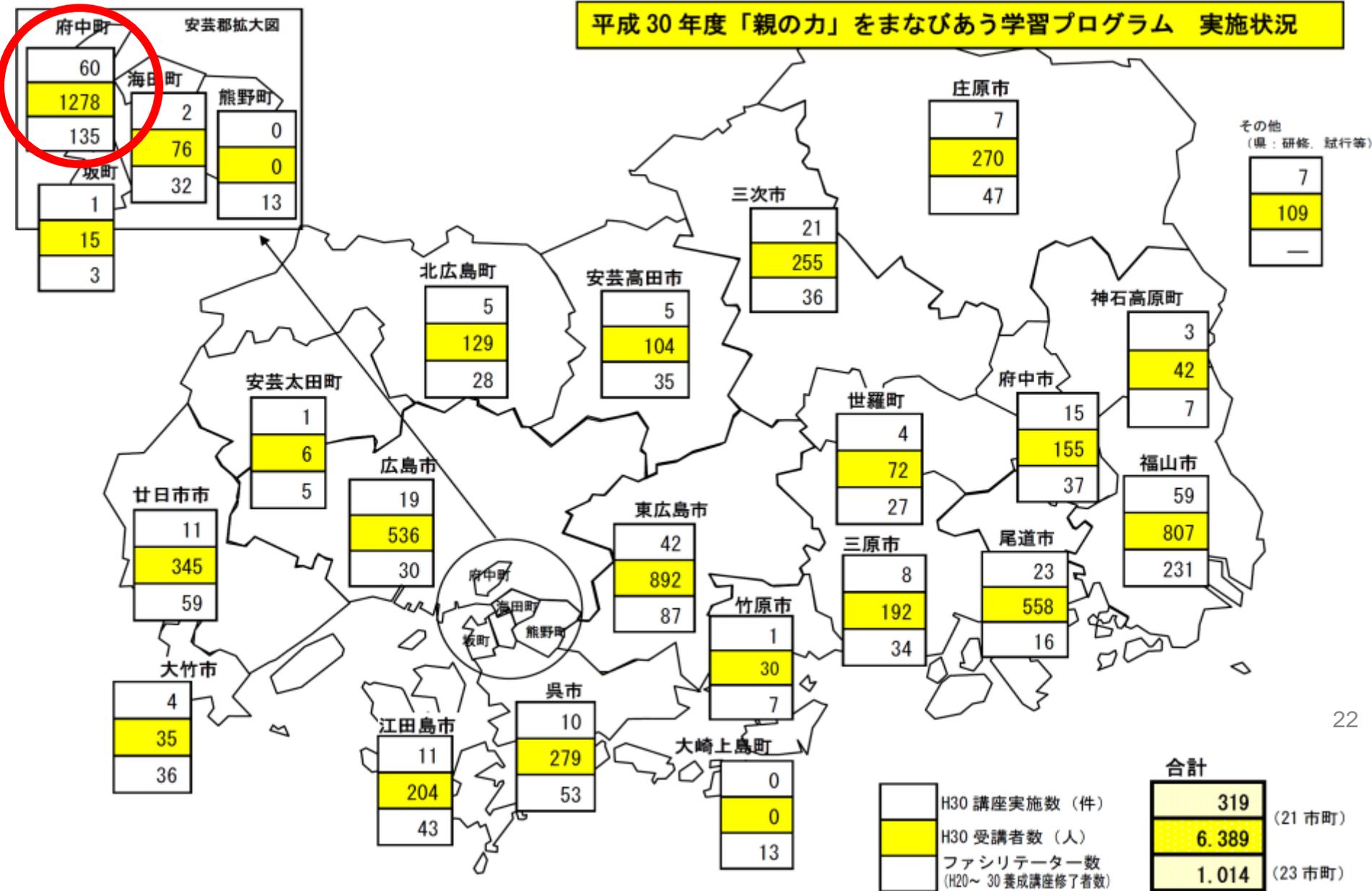
子育ての不安や悩みに変化がありましたか?
不安感が高まった又は大いに高まった 1.0%



安心感が大いに高まった又は高まった **85.6%**

「親プロ」実施状況（市町別）

平成30年度「親の力」をまなびあう学習プログラム 実施状況



「家庭教育支援③ 地域による親子支援」

- ・ 地域における子育てボランティアの育成
- ・ 子育てボランティア等による **チーム型支援体制** の充実

【家庭教育支援チーム】

～県内の家庭教育支援チーム（文部科学省登録）～



家庭教育支援チーム



尾道市向東地区 家庭教育支援チーム “親ぢから” (H20～)

- ・ 「子育て・親育ち講座」
- ・ 「子育てサロンと中学生の保育交流」
- ・ 各種相談対応 …

H29「家庭教育支援チーム」活動の推進に係る文部科学大臣表彰受賞



呉市 家庭教育支援チーム “呉『親プロ』ファシ

- ・ 親プロ（講座型）

リテーションクラブ” (H25～)



府中町 家庭教育支援チーム “くすのき” (H24～)

- ・ 親プロ班（親プロ実施）
- ・ 広報班（啓発・情報発信）
- ・ 託児班（各種行事託児）
- ・ 訪問班（届けにくい方へ）
- ・ しゃべり場班（サロン）

R01「家庭教育支援チーム」活動の推進に係る文部科学大臣表彰受賞



世羅町 家庭教育支援チーム “Pクラブせら” (H22～)

- ・ 親プロ(講座型)

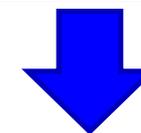
府中町
家庭教育支援チーム
「くすのき」の取組



府中町 家庭教育支援チーム 『くすのき』

1. 成り立ち

「親の力」をまなぶ学習プログラム
を実施するファシリテーターのグループ



府中町家庭教育支援チーム
「くすのき」



家庭教育支援チーム

平成26年4月

文部科学省へ登録



平成27年度 広島県教育奨励賞 受賞
令和元年度 文部科学大臣賞 受賞

2. 組織編成



コーディネーター
6名

- ・教育委員
- ・府中町主任児童委員
- ・社会教育委員
- ・公民館運営審議員
- ・元中学校教師
(特別支援学級担当)
- ・人権擁護委員



ファシリテーター

151名

①『親プロ』班

◆「親プロ」を活用した出前講座

【親プロとは？】



- ・内容 子育てで困ったことなど、日常のエピソードをもとに参加者が話しあい、お互いの不安や悩みに共感しながら、自らの子育てを振り返ることのできるプログラム
- ・特徴
 - ・だれでも使える教材(広島県が開発)
 - ・1グループは5～6名単位
 - ・参加型の講座
 - ・講座の進行役はファシリテーター



◆ファシリテーター(進行役)の養成

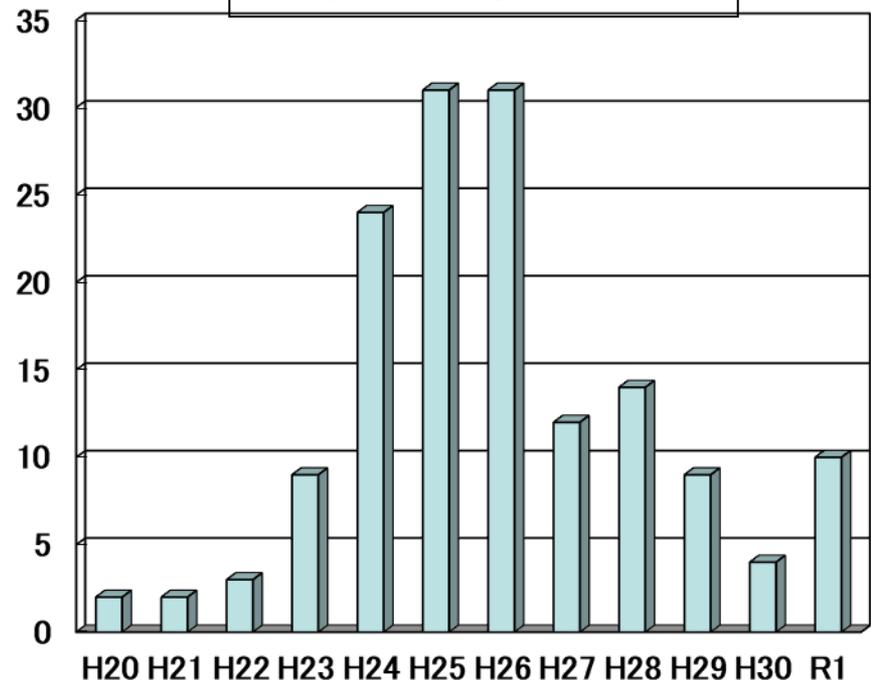
- ・ファシリテーター養成目標 110名
- ・ファシリテーター養成総数 151名 【令和元年度現在】



(内訳)

- ・教育委員・社会教育委員
- ・民生委員・児童委員
- ・学校支援地域本部コーディネーター
- ・子育て支援センター保育士
- ・放課後子ども教室ボランティア
- ・PTA本部役員
- ・自主サークル会員
- ・行政職員
- ・一般(公募)
- ・その他(県・他市町職員)

年度別養成人数



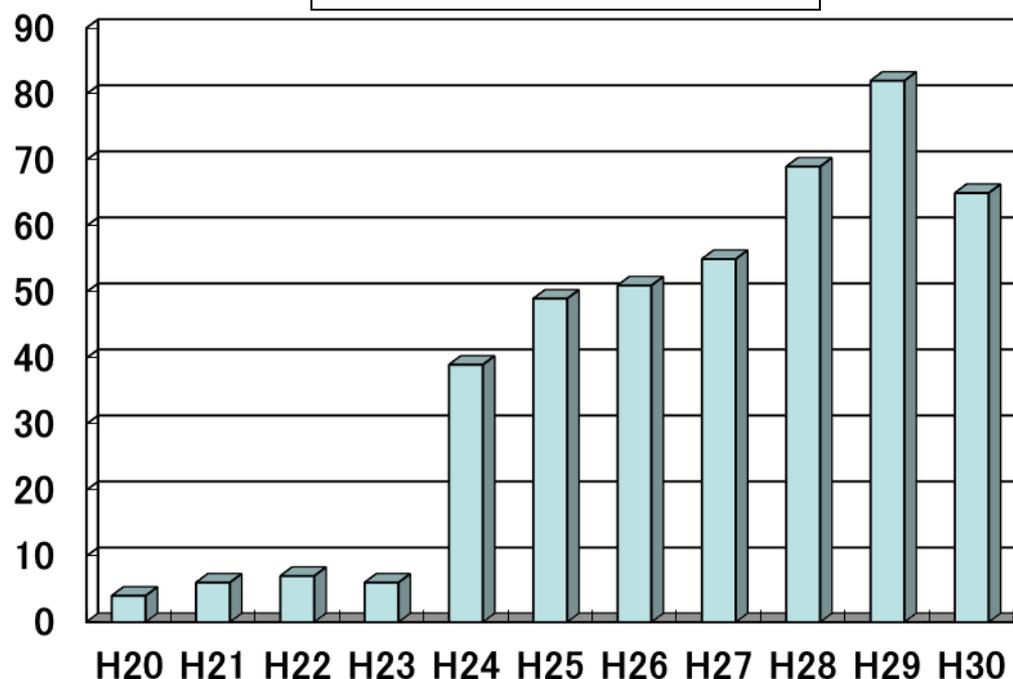
◆講座実施機関の開拓

- ・実施回数、受講者数 82回 1,728名 【平成29年度実績】
- 65回 1,428名 【平成30年度実績】

・実施場所 【平成29年度実績】

保育園	27回
幼稚園	3回
小学校	15回
中学校	5回
高等学校	16回
放課後子供教室	3回
公民館	3回
子育て支援センター	4回
子育てサークル	4回
その他	2回

年度別実施回数



◆「親プロ」特徴的な実施例

実施例① 保育園

☆単発で行うケース



☆継続的に行うケース

毎月のお誕生会参観に訪れた保護者対象

・0歳～2歳児、年少～年長の2クラスに分かれて行う

・参観 → 『親プロ』 → 子供と一緒に
お誕生給食をいただく

実施例② 小学校



調理実習後、会食しながら
食育教材の親プロを実施

対象 : 小学校の保護者



参観後に
実施

児童は
図書室で託児

実施例③ 中学校



中学校区を3ヶ所に分けて、
地域交流会として実施

対象：中学生の保護者・教職員・
民生児童委員・町内会長等

実施例④ 高等学校



他市の高等学校の1先生280人
(7クラス)をクラス別に実施
対象：高校1年生

実施例⑤ 託児つき連続講座



家庭教育支援講座

「イクメンにここに広場」

4回連続講座

対象：未就園児とその父親他

場所：公民館

家庭教育支援講座

「子育て♪にここにクラブ」

3回連続講座

対象：未就園児と保護者

場所：公民館



②『託児』班



『ネウボラふちゅう』子育て支援
『9か月児のびのび赤ちゃん広場』
における付き添い児童の託児

「親プロ」講座を行う時や、
家庭教育支援に係る講演会や
イベント等の託児サービス



『ネウボラふちゅう』 関連施設



- ネウボラふちゅう・・・ 2箇所
福祉保健部子育て支援課
こども家庭係(役場2階)
福祉保健部子育て支援課
母子保健係(福寿館内)

- 府中南交流センター
1階 集会所 行政出張所
2階 児童センターバンビーズ

- 府中北交流センター
1階 集会所
2階 児童センターハッピーズ

③『しゃべり場』班



ヨガ体験 & しゃべり場
コミュニティスクールにて
対象 : 小学生の保護者
未就学児の保護者
地域の人

児童センター「バンビーズ」
対象：未収園児の親子



④『訪問』班

不登校支援カフェ
(月に1回)



マツダ財団助成金による
不登校支援の講演会

さらに・・・
令和元年度からは、
不登校支援「親の会」
も開催 (月に1回)

第11回 カフェくすのき 作って食べよう!!

簡単クッキング & ランチパーティー!!

今年最後の「カフェくすのき」は、
簡単なお料理を作って、
みんなでワイワイ楽しく食べましょう!!

何をつくるかは
当日のお楽しみ!!
時間がいつもと違うので
注意してね♪

あるとよいもの：エプロン、三角巾、
ハンドタオル

※アレルギーのある方は、ご相談ください。

日時:平成30年12月22日(土)
午前11:00~午後2:30

参加費:無料

場所:広島青少年文化センター
府中町坂田3丁目11-1

お子さんも
一緒に
どうぞ!!

「カフェくすのき」とは、
不登校や学校に行きづらいなどの
悩みをかかえる小中高校生、
またその保護者のための
「居場所づくり」のスペースです。

主催:府中町家庭教育支援チーム「くすのき」
府中町教育委員会
後援:公益財団法人広島青少年文化センター、公益財団法人マツダ財団
【問い合わせ先】TEL.082-286-3272(平日 8:30~17:15)
府中町教育委員会 事務局 社会教育課

府中町のキャラクター『つばき坊や』と『カープ坊や』が
コラボした『家庭教育のあり方』マグネットシートを作成

府中町社会教育委員からの提言
「府中町における家庭教育のあり方」
 家庭教育はすべての教育の出発点です。子どもの基本的な生活習慣の形
 人図として望ましい心算や態度を養う上で、家庭は大きな役割を担っています。

■ 結婚前の若いあなたへ
 家庭を築くに当たって、結婚や子育ての責務について考えましょう
 結婚とは、成長環境の異なった男女がともに幸せを求め、社会的に責任を
 もって家庭生活を営むことです。それは相互の立場を理解し、お互いの人格
 を認め尊重することで成り立ちます。夫婦は、子どもの誕生によってそれぞれ
 父親・母親となり、子どもを育てるといった新たな責任を負います。そして、子
 とともに両親もまた成長していくよう努めることが大切です。

■ 子育てをしているあなたへ
● 家庭では
 家庭は子どもにとって心の拠り所となる場です。
 して子どもの規則正しい生活習慣を形成し、
 もあります。乳幼児期から学童期、思春期へと、
 しさ(保護・受容など)と厳しさ(善悪の判断・規
 れた良好な親子関係を築いていくことが大切です。

裏面には



府中町家庭教育支援チーム「くすのき」
 〒735-0006 安芸郡府中町本町一丁目10-15
 府中町教育委員事務局社会教育課内
 TEL/082-286-3272 FAX/082-286-3298
 ひどりで悩まずに
 どんなことでもお気軽にご相談ください。
 府中町家庭教育支援チーム「くすのき」は、
 「府中町で育ちよう！子供たちの明るい笑顔と
 未来」をテーマに子育てや子どもに関する悩
 みや心配ごとの相談や支援を行っています。

『社会教育委員からの提言』より

関心を持ってもらうために、広島東洋カープの
 協力を得て、カープ坊ややスライリーをあしら
 った『乳幼児期』『学童期』『思春期』の
 3タイプを作成。裏面には家庭教育支援
 チームの連絡先を記載。

1月より生後9か月健診で『乳幼児期』シート
 を配布開始。『学童期』『思春期』は小中学校
 入学式で新入生の保護者に配布予定。



⑤『広報』班



パンフレット

第6回
カフェ くすのき

**春のお花で
アレンジメントを
作りましょう♪**

みんなでオリジナルバッグを作ったり、お茶を飲んでおしゃべりしたり、情報交換したりしてのんびり過ごしますが、お子さんもちろんどうぞ♪

春ですぬー
花々が咲き乱れ、輝々が訪れる季節となりました
最近のお花を作ってかわいいアレンジメントに挑戦しましょう。

**日時:平成30年4月14日(土)
午後2:00~3:30**

参加費:無料

**場所:広島青少年文化センター
府中町浜田3丁目11-1**



※花材の状況により、自費を使ったフラワーアレンジメントになる場合がございます。

『カフェくすのき』とは、不登校や学校に行きづらいなどの悩みをかかえる小中高校生、またその保護者のための『居場所づくり』のスペースです。



広島県IC 広島青少年文化センター

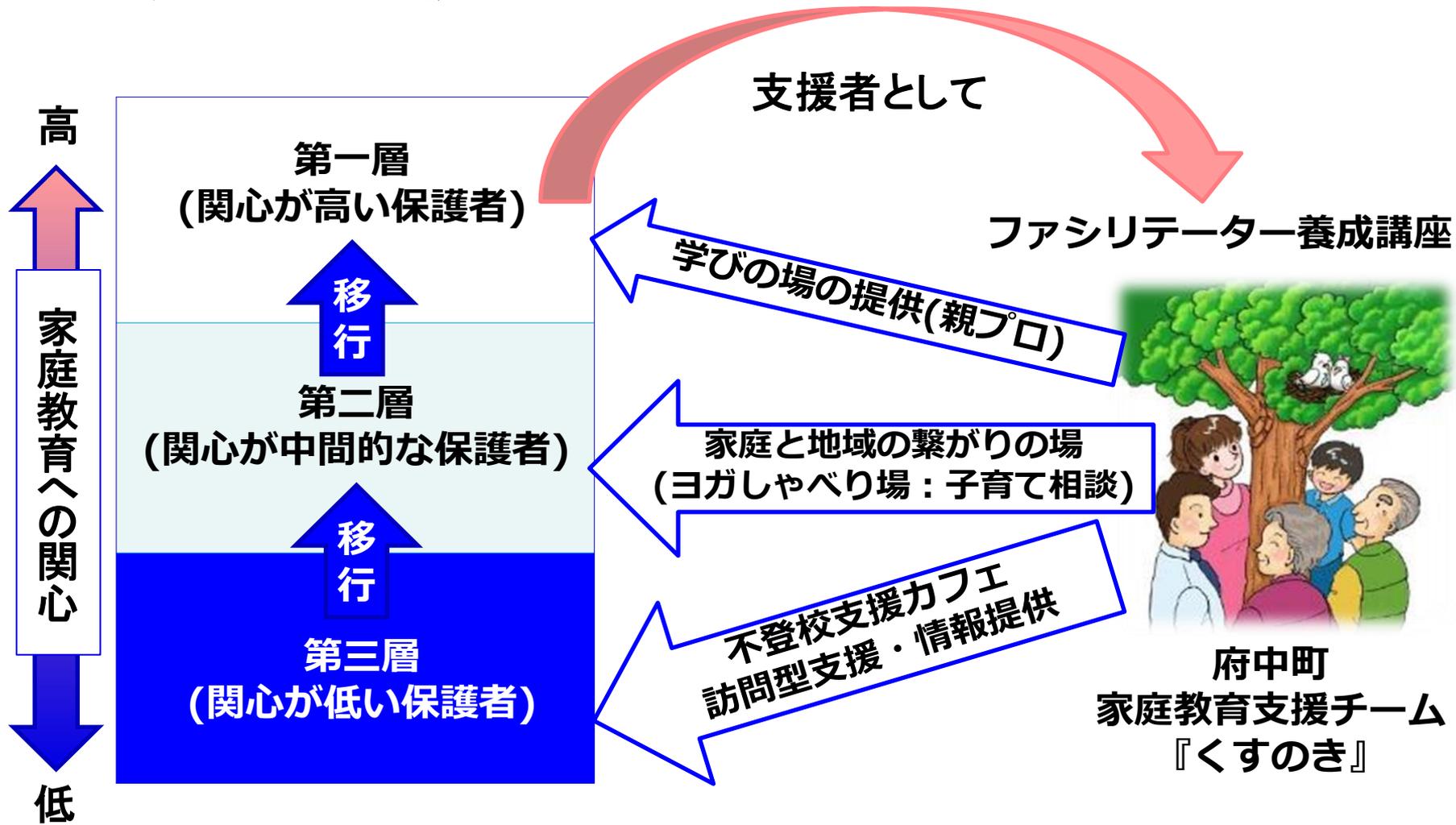
主催:府中町家庭教育支援チーム「くすのき」
府中町教育委員会
後援:公益財団法人広島青少年文化センター、公益財団法人マツダ財団
【問い合わせ先】TEL 082-286-3272 (平日 8:30~17:15)
府中町教育委員会 事務局 社会教育課

イベントチラシ



作品集・レシピ集

3. 家庭教育支援のイメージ図



4.地域課題を踏まえた教材の開発

- 教材1 **イヤイヤエーン！エーン!!**
(0～2歳の親を対象)
- 教材2 **鬼は外～福は内!?**
(3～6歳の親を対象)
- 教材3 **はやく、宿題やりなさ～い!!**
(小学校1～3年生の親を対象)
- 教材4 **寛太くんは青春真ただ中!?**
(小学校高学年～中学生の親を対象)
- 教材5 **ただ今 ゲームに夢中!!**
(小学校4～6年生の親を対象)
- 教材6 **朝ごはんを食べよう！・・・レベル1と2**
(未就学児の親を対象)
- 教材7 **「寝る子は育つ」ってホント!?**
(未就学児の親を対象)
- 教材8 **スマホに子守りをさせてませんか!?**
(未就学児の親を対象)
- 親コミ **「ちゃんとしてね！」で伝わってる？**
(未就学児の親を対象)



ドイツの現場から

(テーマ：子供・若者の貧困)

日独青少年指導者セミナー 学習成果報告

【2019日独青少年指導者セミナー】

社会の課題や変化に対応するための青少年を対象とした取組

A2団：子どもと若者の貧困—課題と解決に向けた取組

(松田ほか計8名+団長1名)

日 程：11月3日(日)～11月17日(日) 14泊15日

訪問先：ドイツ(ベルリン・シュテンダール・ケルン)の関係機関・組織

主催：文部科学省(独立行政法人国立青少年教育振興機構)

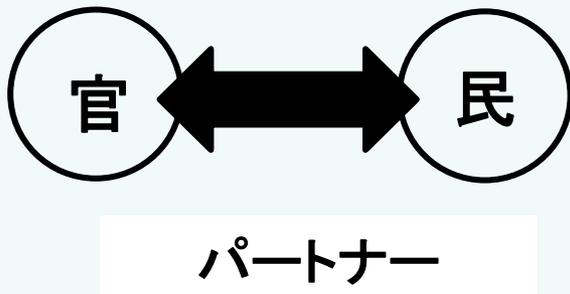
今回の訪問先

- ベルリン日独センター
- ドイツ連邦共和国国際ユースワーク専門機関（IJAB）
- マクデブルク・シュテンドール専門大学
- 同権福祉連合会ザクセン・アンハルト州北部支部
- シュテンドール市
- 統合保育園 クンターブント
- 労働者福祉団AWOベルリン支部
- ベルリン若者職業センターJBA
- アルブレヒト＝フォン＝グレーフェ中等教育学校
- SPI財団
- 宝島サーカス
- ベルリン・フリードリヒスハイン＝クロイツベルク区役所青少年局

官と民の関係性

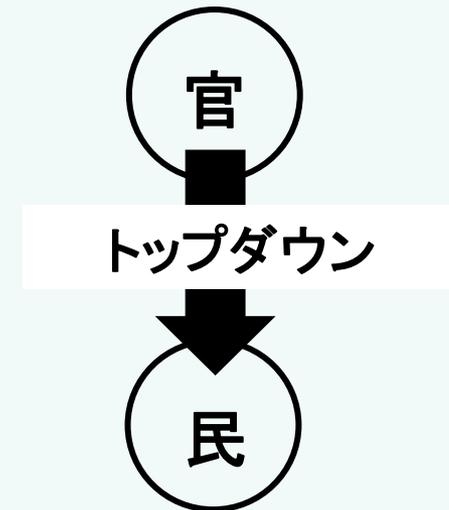
ドイツの場合

- ・多様なニーズへの対応
- ・民から官への働きかけ

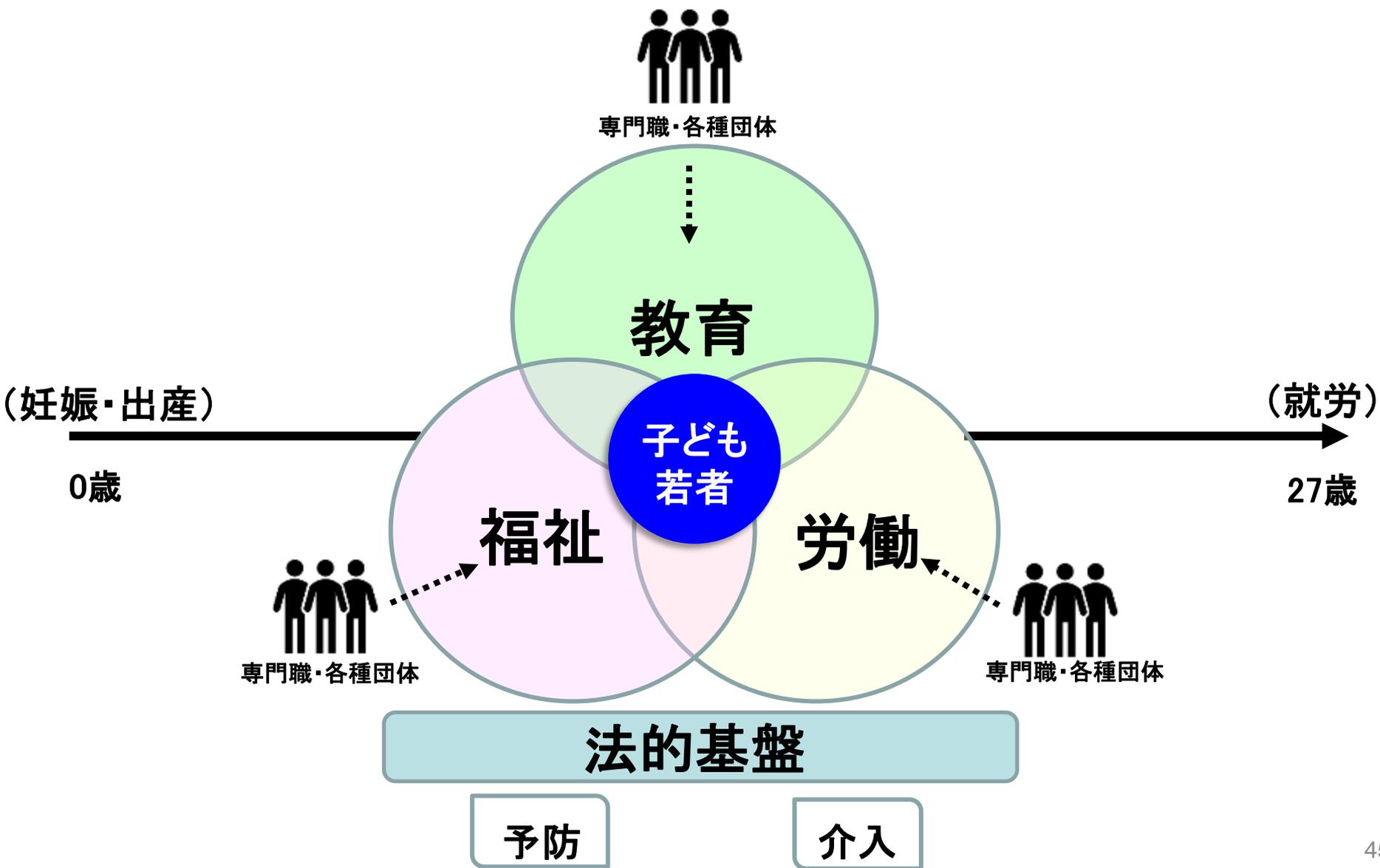


日本の場合

- ・全国に同様のサービスが普及
- ・現場の声が反映されにくい
- ・ボランティアへの依存



多様な専門職による包括的支援



届きにくい人にどう届けるか —ターゲット型支援の視点—

- ① (見えにくい) 貧困の発見
 - ▶ 貧困を恥と感じ、隠そうとする感覚は日独共通
- ② 親(家庭)へのアプローチ
 - ▶ 相談対応, 親教育, 子育てバッグのプレゼント, 子育てカフェ…
- ③ アウトリーチ —出向く支援—
 - ▶ モビリティ問題への対応, アウトリーチ型SW (ストリートワーク)
- ④ 地域コミュニティのリソース活用
 - ▶ 地元のお母さん事業 (移民の背景を持つ母親同士のピアサポート)
- ⑤ 情報伝達
 - ▶ 多言語・分かりやすい言葉でのフライヤーの作成

全ての子ども・若者の育ちを 支えるアプローチ

インクルーシブ教育

リソース主義

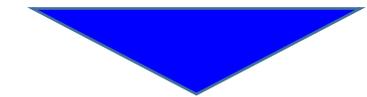
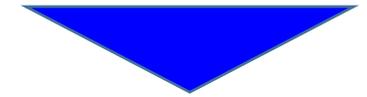
青少年育成

就労支援

自己肯定感
人格形成

社会参画

民主主義社会
の実現



学校における子ども・若者支援

① 特色あるカリキュラム

州ごとに教育制度を決められる

- ・ 労作教育（就労支援＋人格形成）
- ・ プロジェクトウィーク（学校外での体験活動）

② 校内の役割分担（多様な専門職の配置）

教員 → 教科教育

教員以外の専門職員（SSW・保育士等） → 人格形成・福祉

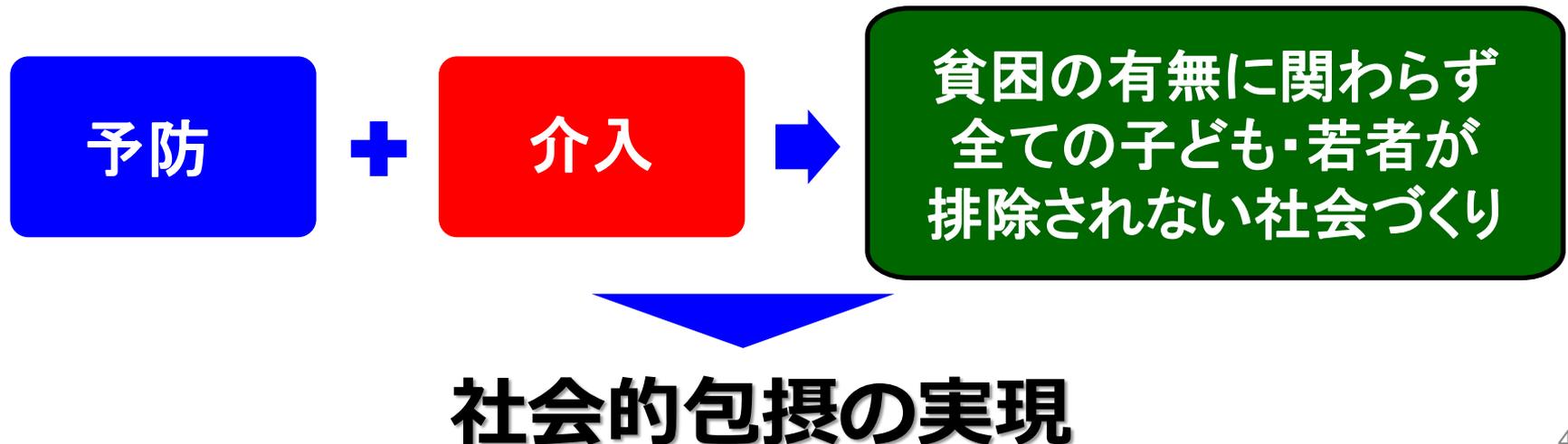
日本に持ち帰り、取組に反映させたいこと

①縦割り型行政の弊害

- ▶ 官と民のパートナーシップ
- ▶ 民の声を反映させる土台作り
- ▶ 包括的支援制度(ワンストップ型支援)の拡充

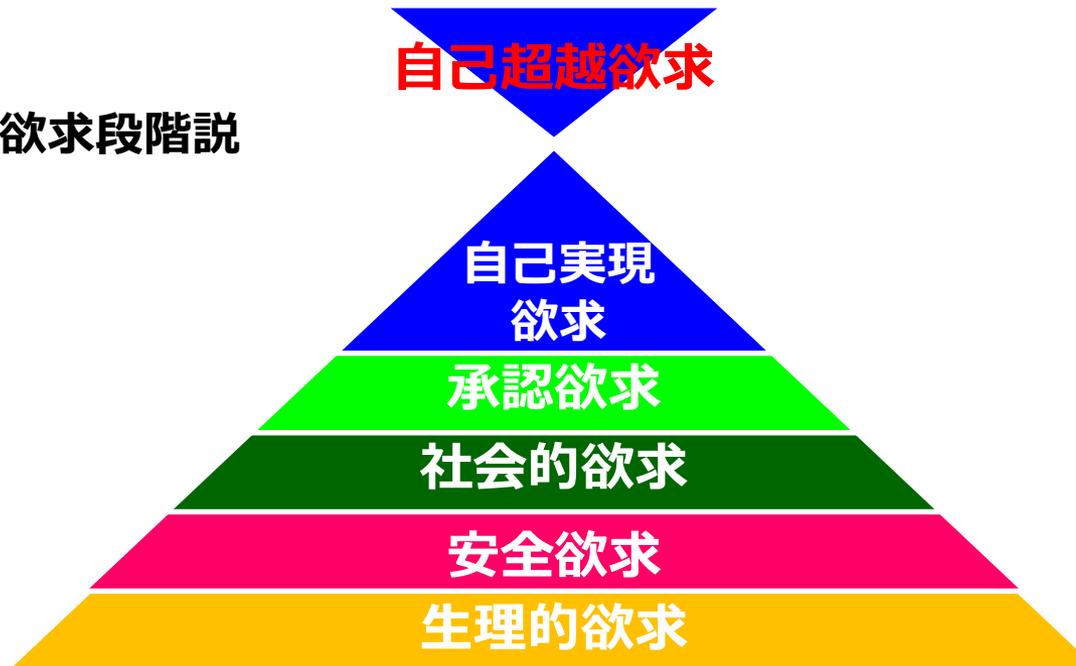
②学校中心社会の限界

- ▶ SSW(スクール・ソーシャルワーカー)の常駐
- ▶ 多様な専門職の育成・配置
- ▶ 社会参画を通じた民主主義社会における主体の形成



おわりに

マズローの欲求段階説



家庭教育支援チーム「くすのき」は
府中町の宝！



府中町の未来に向かって、
すべての親子が幸せになる家庭教育支援を目指し、
ともに学びあい、つながりあい、実践していきましょう！